

# 日本菌学会ニュースレター

*Newsletter of the Mycological Society of Japan*

2023-2 (3月)

## 目次

掲示板:日本菌学会菌類観察会のお知らせ	村口 元	1
学会記事:会員消息		2



スタジイ林で雪のなか生えていたクヌギタケの仲間

私は現在クヌギタケ属の研究に従事しております。本属にはいまだ非常に多くの未記載種が存在するとされており、採集に行った際にも季節を問わず多くのきのこが出迎えてくれます。冬の雪のちらつくような季節でも姿を見せてくれますし、雪に埋もれながらも人知れずひっそりと生きている健気なきのこを見つけたときは、ついつい写真を撮ってしまいます。

さて、このクヌギタケ属の不明種は、同じく冬の種類であるセンボンクヌギタケと比較すると、子実体全体の色調がやや暗く、縁シスチジアの構造が明確に異なりま

す。海外で知られている *Mycena semivestipes* にも外部形態が類似しておりますが、縁シスチジアの形態に違和感があり、今後詳細な形態比較などの調査が必要になります。

今年は大雪で冬季に野外観察に出かけることが難しかったのですが、このような人知れず生きているきのこを探しに、これからいそいそ山へ赴きたいと思います。

長棟 光祐

(鳥取大学大学院 持続性社会創成科学研究科)

2023 年度  
日本菌学会菌類観察会  
(秋田フォーレ)  
のお知らせ  
村口 元  
(実行委員長)

2023 年度の日本菌学会菌類観察会（フォーレ）を下記の通り実施予定です。

今回のフォーレは、秋田県で1泊2日の日程で行います。観察地は、田沢湖に近い休暇村乳頭温泉郷のAコース(キャンプ場)、Bコース(空吹湿原)の2箇所を予定しております。どちらもブナ、ミズナラなどの広葉樹林です。秋田きのこの会で、ここ数年、下見を兼ねて観察会を行ってきましたが、観察時期によってかなり違う種類のきのこが発生します。観察会前の天候の推移によって、きのこの種類は変わってくると予想され、どんなきのこが観察できるかは当日になってみないと分かりません。これまで観察できたきのこの写真のいくつかを秋田フォーレお知らせサイト (<https://sites.google.com/view/akita-foray/>) に載せておきますのでご覧ください。

日本の奥座敷、秋田の秘境に広がる菌類の世界をどうぞ満喫してください。多数の方々のご参加をお待ちしております。

記

1. 開催日：2023年9月30日(土)～10月1日(日)
2. 観察地：
  - Aコース：休暇村乳頭温泉郷キャンプ場(秋田県仙北市)
  - Bコース：休暇村乳頭温泉郷空吹湿原(同上)
3. 講演会場：
  - Cerulean Resort AONI(セルリアンリゾート アオニ)
  - (旧：田沢湖高原リゾートホテル ニュースカイ)
  - (秋田県仙北市)
4. 同定会場：同上
5. 宿泊施設：同上
6. 募集人数：60名程度
7. 日程(予定)：
  - 9月30日(土) 14:00～参加者受付
  - 15:00～開会式・講演会
  - 18:00～夕食
  - 19:15～交流会

- 10月1日(日) 7:45～朝食
- 8:45～記念撮影後、各観察地へ出発
- 12:30～ホテルへ帰着後昼食
- 13:00～同定開始
- 16:30～閉会式
- 17:00～解散
- 有志で収集品の整理片付け

8. 参加費用の概算：

- 参加費 6,000円程度(観察会バス代・昼食代を含む)
- 宿泊費 1泊15,000円(シングルはありません。2～5名の相部屋となります)
- 交流会費 2,000円

9. 申込詳細：

詳しい内容及び参加募集は、日本菌学会会報第64巻第1号(5月発行)及び日本菌学会HP(5月掲載予定)にて案内を行います。

10. 共催団体：

秋田県立大学、秋田きのこの会、日本菌学会東北支部、青森県きのこの会、仙台キノコ同好会、菌類懇話会

11. 問い合わせ先：

- 小林 徹 (koba8332@amber.plala.or.jp)
- 谷口 雅仁 (gajin@mctv.ne.jp)
- 名部 みち代 (forest@phoenix-foundation.jp)

このページは『会員限定記事（印刷版限定）』

日本菌学会ニュースレターは年4号発行され、学会会員と賛助会員まで送付されます。発行部数は1,300部です。また、常時投稿記事を募集しております。ご意見、ご不明の点などございましたら下記の編集委員までご連絡下さい。

日本菌学会ニュースレター編集委員長(2021-2022年度)  
広瀬 大 日本大学薬学部  
hirose.dai@nihon-u.ac.jp

## 同編集委員

井本敏和 菌類懇話会

kusabira@mist.ocn.ne.jp

牛島秀爾 日本きのこセンター菌茸研究所

kin-ushis@infosakyu.ne.jp

北出雄生 森林総合研究所九州支所

y.kitade3335@gmail.com

升本 宙 京都大学大学院地球環境学堂

masumoto.fungi@gmail.com

三輪恵実 (株) テクノスルガ・ラボ

e.miwa0823@gmail.com

一般社団法人日本菌学会会長 (2021-2022年度)

細矢 剛 (国立科学博物館)

〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1

## 副会長

矢口貴志 (千葉大学)

## 理事

岡根 泉 (庶務担当; 筑波大学)

折原貴道 (日本菌学会会報編集責任者; 神奈川県立生命の星・地球博物館)

糟谷大河 (国内集会担当; 慶應義塾大学)

田中栄爾 (広報・企画・教育・普及担当; 石川県立大学)

谷口雅仁 (国内集会担当; 菌類懇話会)

玉井 裕 (編集委員長; 北海道大学)

出川洋介 (広報・企画・教育・普及担当; 筑波大学)

服部 力 (会計担当; 森林総合研究所)

廣岡裕吏 (国際集会担当; 法政大学)

保坂健太郎 (庶務担当; 国立科学博物館)

日本菌学会ホームページ

<http://www.mycology-jp.org/>

速報性の必要なイベント情報の掲載などは学会ホームページ担当 (secretary-general@mycology-jp.org) までお問い合わせ下さい。その他、学会運営等に関しては、上記まで適宜お問い合わせ下さい。

日本菌学会では、随時、会員を募集しております。広い意味での菌類 (地衣、粘菌なども含む) に興味をお持ちの研究者ならびに愛好家の方など、どなたでもご入会いただけます。学会への入会方法は、ホームページをご覧ください。また、賛助会員についても募集しております。

子囊菌門のチャワタケ亜門 Pezizomycotina 内の系統関係については、最初にチャワタケ綱 Pezizomycetes とオルビリア綱 Orbiliomycetes が分岐したことを除き、残りのグループ間の系統関係はコンセンサスがありませんでした。最近出版された Diaz-Escandón らの研究では、子囊菌門の 481 個のゲノムから抽出した 1292 個の遺伝子を用いたゲノムレベルの系統解析が行われ、チャワタケ亜門内の系統関係について新たな知見が報告されました。特筆すべき結果としては、地衣共生を営む3つの綱 (リキナ綱 Lichinomycetes, ホソピンゴケ綱 Coniocybomycetes, ロウソクゴケ綱 Candeliariomycetes), 蘚苔類やツツジ科植物と関係が深いテングノメシガイ綱 Geoglossomycetes, シバンムシとの共生が知られる *Symbiotaphrina*, 内生菌として知られる *Xylona*, 樹脂上に生える *Sarea*, 藻類との関わりが示唆されている *Thelocarpon* や *Vezdaea*, これらの単系統性が支持されたということが挙げられます。この“単系統”は今から3億年以上前 (古生代石炭紀くらい) にユーロチウム綱 Eurotiomycetes とチャシブゴケ綱 Lecanoromycetes の共通祖先から分岐したとのことですが、形態面での共通形質は今のところ見つかっておりません。一方で、代謝に関わる遺伝子の多様性が低く、腐生菌や病原菌よりも共生に関わる菌類が多いという特徴を持っています。今回新たに見出された“単系統”が今後も支持され続けるのか注目していきたいところです。

(編集委員 升本 宙)

早いもので私が編集委員に就任してから1年が経とうとしております。新型コロナウイルス感染症やウクライナ情勢など世界情勢が目まぐるしく変化した1年間であったと思い返しております。

私個人にとっても大きな転換点でした。昨年11月より森林総合研究所九州支所のポスドクとして国産トリュフ栽培に関する研究に従事することとなりました。着任して2週間ほどたったある日、植栽試験地で採集された子実体を見せていただき、栽培成功の瞬間に立ち会うことができたのは大変貴重な経験でした。また、この内容についてのプレスリリース等についても予想以上の反響があり、気が引き締まる思いです。この研究はまだまだ発展の余地があり、様々な課題に精力的に取り組んでいきたいと考えております。

さて本年5月に菌学会大会が開催予定で、会場は熊本となっております。まだ熊本に来て4か月ほどの者が申し上げることでもありませんが、熊本は大変良いところですので、ぜひお越しいただければと思います。みなさまにお会いし、研究交流できることを心より楽しみにしております。

(編集委員 北出雄生)

## Volume 64, Issue 1 (2023)

Available online at: <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/mycosci/-char/ja>

### Contents

- FP** North-to-South diversity of lipomycetaceous yeasts in soils evaluated with a cultivation-based approach from 11 locations in Japan  
Atsushi Yamazaki, Wanlapa Lorliam, Masataka Uchino, Ken-ichiro Suzuki, ..... 1–10  
Hiroko Kawasaki
- FP** Characterization of *Penicillium* species isolated from *Dioscorea polystachya* in Hokkaido  
Roselyn Jove Uy, Miyuki Kayamori, Chiharu Nakashima ..... 11–18
- FP** *Hypochnicium* sensu lato (Polyporales, Basidiomycota) from Japan, with descriptions of a new genus and three new species  
Nitaro Maekawa, Ryo Sugawara, Hiroki Kogi, Shungo Norikura, Kozue Sotome, ..... 19–34  
Naoki Endo, Akira Nakagiri, Shuji Ushijima
- SC** DNA barcode sequencing discovered the aecial host of *Puccinia chunjie*  
Sarah Hambleton, Miao Liu ..... 35–39
- N** Reassessment of type specimens of *Cordyceps* and its allies, described by Dr. Yosio Kobayasi and preserved in the mycological herbarium of the National Museum of Nature and Science. Part 4. *Cordyceps* s. l. on Lepidoptera  
Hiroki Sato, Sayaka Ban, Tsuyoshi Hosoya ..... 40–46

**RV** Review

**FP** Full Paper

**SC** Short Communication

**N** Note

## 日本菌学会賛助会員

### (株) 秋山種菌研究所

〒 400-0042 甲府市高畑 1-5-13  
Tel 055-226-2331 Fax 055-226-2332

### (株) キノックス

〒 989-3126 仙台市青葉区落合 1-13-33  
Tel 022-392-2551 Fax 022-392-2556

### 合同酒精 (株) 酵素医薬品研究所

〒 271-0064 松戸市上本郷字仲原 250  
Tel 047-362-1158 Fax 047-364-6466

### 第一三共 RD ノバーレ (株)

#### 創薬基盤研究部天然物 G

〒 134-8636 江戸川区北葛西 1-16-13  
Tel 03-5696-8301 Fax 03-5696-8302

### (株) 千曲化成

〒 389-0802 千曲市内川 1101  
Tel 026-276-3355 Fax 026-276-6182

### (一財) 日本きのこ研究所

〒 376-0051 桐生市平井町 8-1  
Tel 0277-22-8165 Fax 0277-46-0906

### (株) 富士種菌

〒 400-0226 南アルプス市有野 499-1  
Tel 055-285-3111 Fax 055-285-3114

### ホクト (株)

〒 381-0008 長野市大字下駒沢 800-8  
Tel 026-296-3211 Fax 026-296-1465

### (株) 北研

〒 321-0222 栃木県下都賀郡壬生町駅東町 7-3  
Tel 0282-82-1100 Fax 0282-82-1119

### 三菱ケミカル (株)

#### Science & Innovation Center

〒 227-8502 横浜市青葉区鴨志田町 1000 番地  
Tel 045-963-3601 Fax 045-963-3976

### 森産業 (株) 研究開発部

〒 376-0051 桐生市平井町 8-1  
Tel 0277-22-8168 Fax 0277-40-1557

### (株) 雪国まいたけ 研究開発室

〒 949-6695 南魚沼市余川 89  
Tel 025-778-0153 Fax 025-778-1282

(2023 年 2 月現在)

# 日本菌学会ニュースレター著作権譲渡書

メール添付ファイルにて本著作権譲渡書をお送り下さい。

題名：

投稿者名及び所属（全員）：

掲載予定誌：日本菌学会ニュースレター

著者全員は、「日本菌学会ニュースレター投稿案内」の著作権に関する記述を理解し、以下の諸項に同意する。

- (1) 著作権の日本菌学会への譲渡。電子メディア化する権利、翻訳権、翻案権、二次的著作物の利用権を含む。
- (2) 投稿原稿等は過去に公開されたことが無く、本質的な類似性を持つものも公開されたことが無く、かつ日本菌学会以外の出版物への公開を予定していない。
- (3) 他の著作物の著作権を侵害しないこと。著作権許諾が必要な引用については無償での転載許諾を書面で得ていること。
- (4) 必要な場合には著者の所属機関のしかるべき権限を有する人の同意を得ていること。

なお、本書によって著作権の譲渡を行っても、以下の権利は著者の手元に残るものとする。

- \* 著作権以外の例えば特許権のような権利
- \* 著者が自分の業績をまとめる際にその一部分として使用すること
- \* 著者が営利を目的とせずに行う複写（例えば教育資料としての使用）
- \* その他、日本の著作権法に反しない利用

著者名：

署名：

（著者が複数の場合には代表者）

日付： 年 月 日

（以下は著者の所属機関で、著作権譲渡に責任者の承認が必要な場合に使用してください）

責任者名：

署名：

（責任者が複数の場合には代表者）

役職：

日付： 年 月 日

# 日本菌学会ニュースレター投稿票

メール本文または添付ファイルにて投稿票をお送り下さい。

題名：

投稿者名：

連絡先：〒

電話：

電子メール：

投稿区分（○で囲んで下さい）：資料 研究レポート 報告 紹介 随想 解説 書評 表紙写真（イラストも含む）  
その他（ ）

その他、要望等：

※ご投稿いただいた記事は原則として、クリエイティブ・コモンズ表示・非営利（CC BY-NC 4.0）の条件下で掲載されます。ただし、著者全員の合意があれば、表示・非営利・改変禁止（CC BY-NC-ND 4.0）も選択できます。表示・非営利・改変禁止をご希望される場合は「その他、要望等」欄にその旨をご記入ください。

日本菌学会ニュースレター 2023 年 2 号

令和 5 年（2023 年）3 月 1 日

編集者 広瀬 大

発行人 細矢 剛

印刷所 勝美印刷株式会社

〒 113-0001 東京都文京区白山 1-13-7

アクア白山ビル 5 階

Tel. 03-3812-5201（代表）

発行所 一般社団法人 日本菌学会

〒 113-0001 東京都文京区白山 1-13-7

アクア白山ビル 5 階